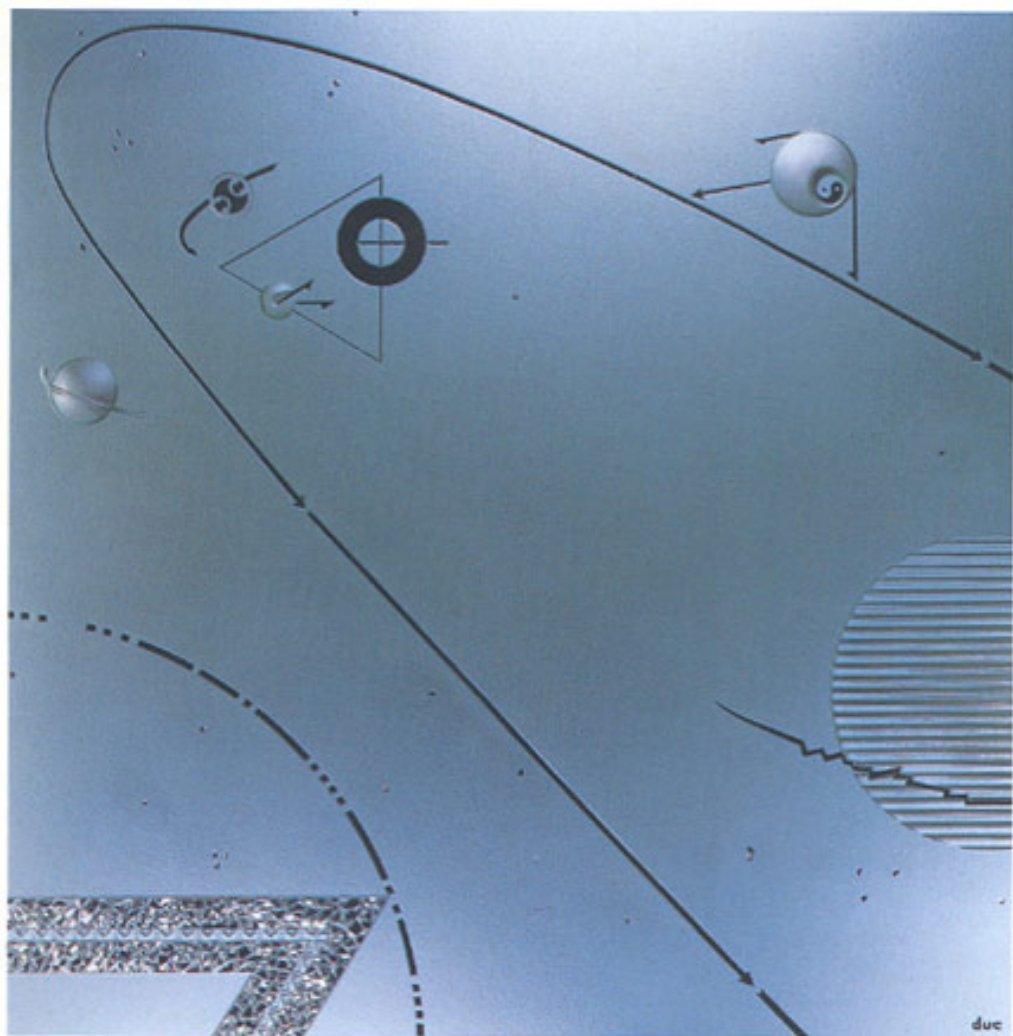


T O S T E M

V I E W

Metropolitan
Landscape
Magazine
May 1992

32



トステムビュー32号目次

フランスのガラス職人
ペリナール・ピグダは、15年におたって
この題材に新しい特徴を考へようとしてきた。
ジャン・ヌーベルら建築家との共同作業もある。
建築の定義をクラフトが変える
可能性が見える。(p.8)

特集

Between Architecture and Craftsmanship Part 2

建築とクラフトの間 第2回

素材をあやつる5組の職人たち ①
メタル、木、ガラス、プラスターの工房から

Data "View" ②

都市から消える「安楽」の地?

Correspondents' News ②

ニューヨーク、バルセロナ、パリ、ミラノ、ロンドン

世界のコレスポンダントが伝える街のニュース

Tools ①

「フォーシーズンズホテル 椿山荘」

都市の室内に緑を実現する

Tostem Information ①

メンテナンスフリーの美しいカーテンウォール

Topics ②

「トステムハウジングプラザ東京」竣工、etc.



ガラスの 枠はずれる。 素材も職人の 定義も拡大した

構造材としてのガラスの可能性を探るのが、目下のピクテの関心事だ。素材に意を研究するところから、意外な視点は開けた

ガラスの定義を 根本から変える。 これも職人の仕事

ガラスをこよなく愛するフランスの職人、ベルナール・ピクテ。彼は過去15年間にわたって、常に新しいガラスの可能性を追求。とくにこの素材を加工したり、使用したりする上での制約を極力少なくすることを大きな目標にしてきた。

もちろん、その背景には、彼の職人としての高度な技術力がある。それは彼が主に仕事として手がけてきたガラスのオブジェ、あるいはインテリアにおける手摺りやシャンデリア、パーティションなどの緻密な細工を通じて、ひとつひとつ身につけてきたのである。

その強が今もっとも興味をもっているのが、建築へのガラスの応用。なかでもガラスを構造材として使用することである。というのは、ガラスという素材は、これまで建築の分野では、フレームの中にはめ込まれる充填材としてしか使われてこなかった。ピクテがめざしているのは、柱、梁や床のように構造を支える素材としてのガラスなのである。

ピクテの建築への関心は、最近の彼の仕事を見てもわかる。スイスのフリブル市に完成したカルティエの社屋プロジェクトでは、設計にあたった建築家、ジャン・ヌーベルに協力して、高さ15.6m×長さ120mものガラス断面を手がけている。グリッドの中に書かれたカルティエのロゴが徐々にバックの鏡に滑り込み、建物の端に移るに従ってついに逆転するという手の込んだものだ。この表現は異なる密度で染いた成状ガラスとスクリーン印刷の組み合わせで実現された。

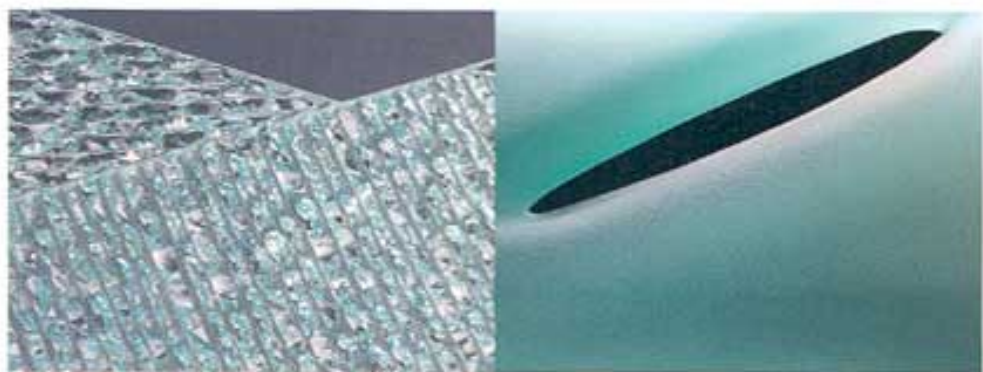
いのアドバイスする。特にガラス業界の動きに詳しいピクテは、実際の製作にふさわしい業者をその広いネットワークから選んで紹介することも多い。

ピクテは、ガラスの進化はガラス製造業者よりも、デザイナーや建築家の創造力に負うところが大きいと考えている。そこで彼は最近、仲間3人とともに新会社「ベルニサーージュ」社を設立。建築家をはじめとするクリエイターを巻き込んで、ガラスの可能性を追求する事業をスタートさせた。

まず、初めての試みとして、ベルニサーージュ社は、素材に対してとくに強いこだわりをもつ6名の建築家、デザイナー、アーティスト（シルヴァン・デュビゾン、クリスチャン・デュック、パスカル・ムルギユ、ガルストルポネッティ、スタジオ・ナソ、モヤ）に共通のテーマで作品を依頼した。そのテーマ

とは「ガラスで驚かせて」である。成果は上々で、同社はこれまでになかった新しいガラスの表現形態を引き出すことに成功した。

ピクテによると、ガラスは素材としてまだまだ成長する可能性をもっているという。とくにこれからは、建築用構造材としてのガラス、あるいは熱線吸収、液晶ガラスなど、機能面での見直しが進む。さらに、ガラスの分子構造を変えて、半有機無機体のガラスが開発されれば、釘やねじを打てる素材となり、ガラスの概念そのものが大きく変わってくるという。ピクテが夢見る世界は、もうすぐそこまでやってきている。



ガラスを進化させる 創造力の方向

これだけの規模のプロジェクトになると、総勢10人のピクテのアトリエでは手におえない。そういう場合、彼はアドバイザーとしてプロジェクトに参加。建築家が求める造形を表現するにはどのようなシステムを採ればよ

**G LASS
BERNARD
PICTET**
ガラス職人/ベルナール・ピクテ



10 ガラスの性質にはまだまだ未知数が多い



右は、建築家ジャン・ヌーベルのために実現したカルティエ・ビルルのガラス・ファサード。ロゴが反転する不思議な効果を考案した